

10月6日(金)

小坂鉱山事務所

小坂町産業課小笠原氏による概要説明。昼食後の20分間という短時間での説明となった。当該事務所のルネッサンス風の建築様式や、建築から譲渡・移築までの経緯、鉱山の繁栄とともに歩んだ小坂町の歴史等についての説明を受けた。



小坂鉱山事務所



鉱山事務所正面

康楽館

黒子による約30分の館内、舞台裏の説明・見学。楽屋が見学できなかったため、10分程度導入部分を見学。日本最古の国重要文化財の芝居小屋、和洋折衷造りが特徴である旨説明を受ける。当日の観客は、中高年齢者の他に修学旅行生と見られる団体客が大半を占めていた。



奈落の舞台装置



館内の説明

小坂製錬

小坂精錬所におけるリサイクル事業の概要、製錬の流れについてパワーポイントにより説明を受ける。当社の特徴は、他社では困難な複雑鉱の処理ができること。金、銀、銅の他に、鉛、亜鉛なども産出しているのが特徴。廃棄物からの製錬についても力を入れており、グループ内のリサイクルネットワークの中心的な役割を担っている。

説明後、廃棄物最終処理施設「グリーンフィル小坂」、金属蒸気回収炉の「原料ピット」を見学。参加者からは、自動車などが原型から破壊・破砕され、それを原料にリサイクル処理されて製品として出来上がる一連の流れが見える方が分かりやすいとの感想が出た。

同様に、最終製品を見せながら、携帯電話 個からこの金 グラムが出来るといったような、イメージし易い見せ方が一般人受けするとの意見もあった。



工程の説明



原料ピット



原料ピット



グリーンフィル小坂

日本 PGM

パワーポイントにて工程についての説明を受ける。当社では、自動車のペレット触媒やハニカム触媒などから希少金属である白金族（プラチナ・パラジウム・ロジウム）を再資源化している。DOWAメタルマイン、田中金属、小坂製錬の共同出資により設立。

説明後、原料投入工程（ホッパー）等を見学。通常公開していない工程も見学できた。



ホッパー



ホッパー

10月7日(土)

白神山地世界遺産センター

自然保護管井手氏より、世界遺産の意義、白神山地が世界遺産に登録された経緯、遺産地区の概要、生態系等についてユーモアを交えた説明を受ける。紅葉の時期もいいが、白神は新緑の時期が最高であるとのこと。

参加者より、ただ見学するだけでは真の良さが理解できない、このように詳しく説明して貰えれば理解が深まるとの感想があった。(優良なガイドの必要性)



白神山水の館(株)藤里開発公社)

工場が未稼働であったため、パネルにて園部工場長より工程と、当社製品の特徴の説明を受ける。横ボーリング方式により白神山地の岩盤から取水した水を外気に触れさせることなく6.2km先の工場まで送水し、ボトリングしている。加熱殺菌せずに、セラミックフィルターにて濾過している。特徴的なのが、会員制度による購入システム。「白神山水」という名称で販売しているが、県内では伊徳等に入れている。他に、OEMでも様々なラベルで生産している。

参加者から、OEMの製品ラベルでは、この工場で作った「白神山水」というのが分からない。せめて、ラベルは統一すべきとの意見があった。

パンフレットを参加者やサポータークラブ会員に配布し、製品普及に協力を呼びかけることとした。

(白神山地の水の会HP) <http://www.shirakami-fujisato.com/water/index.html>

料亭金勇

秋田スギの銘木を使用して昭和12年11月に建築された料亭。国の登録有形文化財。工夫を凝らした天井造りが特徴。昼食後、料亭内を見学したが、参加者からは好評であった。



風の松原

「風の松原に守られる人たちの会」のボランティアガイドの案内で散策。植林の経緯や、松原の果たしている役割、景観の維持、松食い虫対策等について説明を受ける。



エナジウムパーク（東北電力能代火力発電所）

「人・自然とエネルギーの調和」がテーマ。火力発電所に併設し、排熱を利用した熱帯植物園が特徴。また、能代の伝統芸能なども紹介している。



小玉醸造

はじめに味噌、醤油蔵について見学。煉瓦造り、土壁の古い蔵。醤油の搾り滓の処理について試行錯誤しているとのこと。

清酒醸造蔵についても見学したが、時期的に早いため造り始めの段階であった。

